

平成20年8月22日14時 資料配布

| 配布先 |
|-----------|
| 神戸海運記者クラブ |
| 兵庫県政記者クラブ |
| 神戸市政記者クラブ |
| 神戸経済記者クラブ |

| この件に関するお問い合わせ先 |
|--|
| 神戸運輸監理部 総務企画部 企画課 (担当) 伊藤課長・塚本補佐・橘 (電話) 078-321-3144 |

航路維持と地域づくりにかける島民の熱意を応援！

神戸運輸監理部、神戸大学と観光による離島航路維持活性化について共同研究調査を実施

神戸運輸監理部では、神戸大学と共同で、兵庫県南あわじ市沼島を対象に、島民主体の、島の暮らしと観光が調和した、観光交流人口増加により離島航路を支える、持続可能な離島観光モデル(沼島モデル)を作成するための調査を実施します。

今、全国の離島では、人口減少・高齢化による輸送人員の減少、原油価格高騰、地方財政の悪化によって、唯一交通手段である離島航路が危機に瀕しており、その維持活性化は全国共通の課題となっています。

沼島(人口597人 平成20年7月末現在)も他の離島同様、人口減少等の悩みを抱え、島民の利用だけでは将来、航路を維持できないと危惧されています。

そこで、近年注目を集めている漁業体験ができるグリーンツーリズムや自然を活かしたエコツーリズムに着目し、沼島で島巡りのボランティアガイドをしている「ぬぼこの会」等島の有志とともに、離島航路を支える持続可能な離島観光のモデル(沼島モデル)を作成します。

なお、検討成果は、神戸大学が実施しているシンポジウム「一日神戸大学」等にて発表、離島における観光地域づくりのモデルケースとして全国へ発信する予定です。

第1回委員会当日、記者向けブリーフィングを行います

9月2日(火) 13:10~13:30 神戸第2地方合同庁舎 6階行政相談室にて。
(13:30~6階調停室にて第1回委員会を開催します。冒頭の写真撮影可能)
(説明者)

神戸運輸監理部 伊藤 企画課長・石定 旅客課長

神戸大学 正司教授(経営学研究科)・富田教授(経済経営研究所)・石井教授(神戸大 LLC)

南あわじ市 水田 産業振興部次長兼商業観光課長

観光ボランティアガイドグループ「ぬぼこの会」 中川 神宮寺住職

調査研究スケジュール(予定)

| | |
|---------|--|
| 9月2日 | 第1回委員会 (於:神戸運輸監理部) 基本方針・学識経験者講演・観光資源の掘り起こし |
| 9月 | 第1回地元部会 (於:沼島) 基本方針・地元の取組事例報告 |
| 10月~11月 | 第2回地元部会 (於:沼島) 沼島モデル案作成 |
| | 第2回委員会 (於:沼島) セミナー(エコツーリズム事例紹介)・地元部会取りまとめ報告 陸上・海上ルートからの体験ツアーを実施。マスコミ同行可能 |
| 11月 | 第3回委員会 (於:神戸運輸監理部) 沼島モデルまとめ |
| 1月 | 報告会「一日神戸大学」(於:神戸市内) 沼島モデルの紹介・シンポジウム |
| | 報告会 (於:沼島) 沼島モデルの紹介 |

上記以外に、神戸大学の教授と学生による学術調査(於:沼島)が2回行われる予定

「地域と創る持続可能な離島観光モデルづくり・離島単独航路の維持活性化調査研究委員会」

委員名簿(順不動・敬称略)

H20.8.22 現在

委員 正 司 健 一 神戸大学大学院経営学研究科 教授
 “ 富 田 昌 宏 神戸大学経済経営研究所 教授
 “ 朝 倉 康 夫 神戸大学大学院工学研究科 教授
 “ 水 田 泰 善 南あわじ市産業振興部次長兼商工観光課長
 “ 中 川 宜 昭 めぼこの会代表(神宮寺住職)
 “ 島 津 弘 沼島連合町内会長
 “ 柳 一 信 沼島漁業協同組合長
 “ 木 村 一 沼島総合開発会長
 “ 古 谷 巖 沼島汽船代表取締役
 “ 魚 谷 佳代子 めぼこの会事務局長
 “ 明 山 修 兵庫県農政環境部環境創造局環境政策課環境学習参事
 “ 伊 藤 政 美 神戸運輸監理部総務企画部 企画課長
 “ 石 定 洋 子 神戸運輸監理部海事振興部 旅客課長

(事務局)

神戸運輸監理部

神戸大学支援合同会社(略称:神戸大 LLC)

地域と創る持続可能な離島観光モデルづくり・ 離島単独航路の維持活性化に関する調査

平成20年度
公共交通活性化総合プログラム
国土交通省神戸運輸監理部

- 離島交流人口増大による離島単独航路の維持・活性化方策の検討 -

離島人口の減少・高齢化による輸送人員減や近年の原油価格高騰などが事業経営を圧迫し、地方財政の悪化とも相まって、離島住民にとって唯一の交通手段である離島航路の維持活性化は全国共通の課題である。

他方、漁業体験ができるグリーンツーリズムや自然を活かしたエコツーリズムが近年注目を集めている。

こうした状況を踏まえ、小規模離島における離島観光振興・離島航路維持活性化に関する公共交通活性化総合プログラムのリーディングケースを目指して、兵庫県南あわじ市沼島を調査対象に、地域とともに島の生活、自然、地場産業と観光が調和した、持続可能で交流人口増大が図れる、地域の創意工夫による離島観光モデル(沼島モデル)づくりの調査を実施する。

離島「沼島」の現状と課題

- ・人口の減少(約600人)、高齢化が顕著
- ・本土(淡路島)とは国庫補助を受けた旅客航路事業1社のみ
- ・支援を行う地元自治体のきびしい財政事情
- ・近年の原油価格の高騰による事業経営圧迫
- ・離島航路補助制度改善検討会答申を踏まえた改善方策の検討
 - 収益構造の改善に資する離島交流人口を増加させる方策 -



沼島の地域資源を活用した観光振興策の検討

- ・国内外の離島航路地域の活性化先進事例調査(9月)
(とくに農山漁村交流の先進事例)
- ・島内の体験学習型観光に資する地域資源調査(9月)
- ・沼島観光ボランティア等関係者の取組状況把握(9月)
- ・沼島の地域資源を活用した体験学習型観光プラン提案(10~11月)
- ・提案された体験学習型プランによるフィールドワーク(10~11月)
- ・フィールドワークを踏まえたプランのブラッシュアップ(10~11月)

離島周遊観光の社会実験

- ・海事局検討会答申の内容により実施の可否検討

中高年層の観光需要を見据えた方策の検討(9 - 10月)

- ・ハード面の港・施設・船舶のバリアフリー状況の点検
- ・ソフト面からのバリアフリー観光・観光ホスピタリティ状況の点検

- ### 離島交流人口増大による離島単独航路の維持・活性化方策
- (1) 沼島の地域資源を活用した体験学習型観光の観点から、離島交流人口増大による離島単独航路の維持・活性化方策
 - (2) バリアフリー観光、観光ホスピタリティの視点からの方策

神戸第2地方合同庁舎へのアクセス

